

献立名の変遷<sup>(1)</sup>・三ツ井，五ツ井

香川明善短大

秋山照子

目的 香川県下に現存する古記録により，近世・近代の食生活の実態を解明しようとする。本報ではその一環として献立名，三ツ井・五ツ井をみる。三ツ井・五ツ井は饗応の酒宴の中核をなし，共食形態を代表すると考えられるが古記録の記載は少なく，同様の内容に対し異なった献立名が用いられている。これらの採集，分析は献立の正確な把握に必要であり，又，これによって献立形式，供食形態，階級差などの推移をみることができる。

方法 県下を西讃地域，中讃地域，東讃地域の三ブロックに分け，各地域の記録から，三ツ井・五ツ井又はこれと同種の献立名を抽出し，名称の種類，構成，料理内容などについて，家，地域，年代毎に分類し検討した。

結果 ①西讃 近世では置合を中心に置合重組，重組，稀に置合せ盆，酒盆，酒宴盆，大盆，三ツ井などであり，構成は重と井・鉢など異質の器の組み合わせである。近代は置合の他，稀に三ツ井，五ツ井であり，構成は井・鉢のみへと変化する。②中讃 近世は大盆・小盆を中心に盆組，卓子盆，角盆，手附盆である。近代では大盆・小盆の他，三ツ井がわずかにみられ，年代不詳に三ツ井大盆，大盆三ツ組などがある。③東讃 近世では大盆・小盆の他中盆，大盆三ツ鉢，小盆三ツ井，三ツ井，五ツ井などである。近代では大盆・小盆と共に三ツ井，五ツ井が他地域に比して多用されている。構成は中・東讃共に井・鉢のみである。④全地域を通して，上記献立名は化政期頃から用いられたと推定される。そして，大正，昭和期には次第に衰退し，個単位の銘々盛の供食形態へと移行する。⑤近世，近代を通じて，下分では常に井組みは用いられず個単位の銘々盛の供食形態である。